October

10/10（日）

13:00

宝生月浪能

宝生会の月例能として始まった演能会で、中堅以上の能楽師の厳しい技能の鍛錬の場です。

みどころ

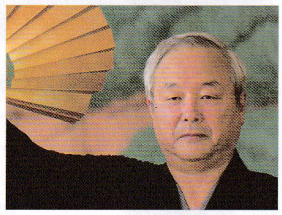
若やいで討死した老武者の心意気を描く「実盛」は、修羅物の中でも難曲とされる「三修羅」のひとつ。実盛の最期を、死後の髪洗いの場を見せた後、錦の直垂（ひたたれ）を着て出陣し合戦、討死場面をクライマックスに置く優れた構成で見せる。一方の「富士太鼓」では、太鼓の役を争って浅間に殺された楽人富士の妻が、夫の形見の装束を身に着け、太鼓を敵に見立てて打つ。頼るべき夫や父を失った母子の哀愁と、狂女物的な華やかさを併せ持つ作品。

13:00- 仕舞 「鶴亀」野月 聡
「班女クセ」金井 雄資
「女郎花キリ」東川 光夫

13:15- 実盛 さねもり

100 シテ 小林与志郎

ワキ	森 常好	間	山本泰太郎	大鼓	亀井 実
ワキツレ	舘田 善博	笛	寺井久八郎	太鼓	小寺 佐七
〃	梅村 昌功	小鼓	飯田 清一		



「修羅能の中で位の重い『朝長』『頼政』『実盛』を三修羅とよびます。『朝長』『頼政』は勤めましたが、『実盛』は初演です。私も実盛の亡くなった歳になりましたが、気力で負けないように勤めたいと思います」

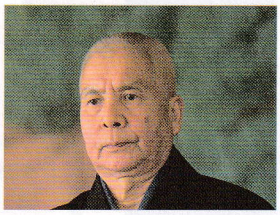
―― 休憩十五分 ――

15:10- 狂言 「伊文字」山本 則俊

15:40- 富士太鼓 ふじだいこ

75 シテ 登坂 武雄

子方	藪 俊太朗	笛	成田 寛人
ワキ	安田 登	小鼓	田邊 恭資
間	山本 則秀	大鼓	柿原 弘和



「夫の形見の衣と烏兜をつけ緩急鋭い舞を舞い、心の内を表します。激しい心の動揺から、静かな悲しみとも諦めともつかない余韻へ…。能の描き出す心象の陰影を表せたら…と思います」